

中学生のP I（ワークショップ）による嵐坂ポケットパーク計画について

四国地方整備局 大洲河川国道事務所
道路管理課 竹田浩己

1、概要

愛媛県北宇和郡津島町にある一般国道56号の嵐坂トンネル(延長308m)は歩道が整備されておらず、嵐坂地区から津島中学、津島高校へ通学している約70人の生徒や年間3000人を越えると言われるお遍路さんは日常的に危険にさらされている。このような状況を鑑み自転車・歩行者の安全確保のため平成13年度より車道トンネルの横に歩行者・自転車専用のトンネルを設置する事業に着手している。

この事業中の嵐坂歩道トンネル東側坑口付近では整備の一環として「四国21世紀の道ビジョン」の理念に沿って、ポケットパークの整備を行うことになり、利用者の要望を把握するためにワークショップを行った。

その結果、中学生と地元の方を中心としたグループによる嵐坂ポケットパークの整備計画案が作成された。

2、事業箇所とワークショップ開催理由

2.1、ポケットパーク整備について

計画地は愛媛県北宇和郡津島町の国道56号嵐坂歩道トンネルの東側坑口付近に位置する敷地である。緑地を囲むように国道56号、町道があり、緑地の中央部に農業用のため池(大門池)がある。

ポケットパークは、一般国道56号を通行している方々の休憩施設、ふれあいの場となることを目的としている。主な利用者としては、嵐坂トンネルを利用している中学生や高校生、地元住民の方、年間3000人を越えると言われるお遍路さんを想定している。



事業箇所
愛媛県北宇和郡津島町
上畑地



2.2、ワークショップについて

ポケットパークの整備計画作成については、津島町との打合せによって、ワークショップを開催することが決定した。理由は以下に示すとおりである。

ポケットパークをより多くの人に利用される施設とするためには利用者のニーズを把握し、そのニーズに沿った施設とする必要がある。

ニーズの調査方法としては、アンケート、説明会、聴き取り調査、ワークショップ等があり、ワークショップは他の方法と比較し対象とできる人数は少なくなるが、参加者が自由に意見を述べることのできるようなルール、雰囲気の中で話し合いが行われるため、より具体的な意見、詳しい要望を得ることができる。

ポケットパークの主な利用者として地元の人を想定していることからアンケートなどによって数多くの意見を集めるよりも、現地の状況を把握している人から、より具体的な要望を得るほうが実際の公園利用者のニーズに沿うことができると判断した。

今回のワークショップは、ポケットパークについてアイデアを出し合い意思決定する集まりで会議の一種として開催した。特徴としては、

- ・誰もが自由に意見を言いやすいように工夫されていること。
- ・全員の創造行為と合意形成に焦点を置いていること。
- ・形式張っていないこと。

などがあげられる。

3、ワークショップの開催

3.1、事前協議

ワークショップの開催にあたって地元の津島町役場（建設課）と参加者、開催時間、開催場所について事前協議を行った。

3.2、第1回ワークショップ（H14.10.13）

3.2.1、概要

・参加メンバー

津島町役場に依頼し参加者を募集してもらった。中学生、先生、老人クラブ、ボランティアグループなどの方が参加。

・作業時間 午前9時～12時 ・場所 ポケットパークの予定地

3.2.1、作業内容

参加者に6つの班に分かれ次のような作業を行った。

現地観察

公園予定地を歩き気づいたこと、思いついたこと



を書き留める。各所に待機している係員に分らないことについて質問する。

図面作成

各班で利用したい公園の図をつくる。表現方法は付箋紙に言葉を書いて図に貼り付けたり、マジックで直接書き込んだりと自由である。

発表

代表者が参加者全員のまえて出来上がった公園の図について説明する。

意見の出やすい雰囲気にするため以下の点をルールとしました。

- ・人の名前は さんで呼ぶこと。
- ・ラフな服装であること。
- ・人の意見を否定しないこと。

3.3、第2回ワークショップ(H14.10.25)

- ・参加メンバー 津島中学の生徒と先生。
- ・作業時間 午後4時～5時30分 ・場所 津島中学校

3.3.2、作業内容

第1回のワークショップの図から今回の公園に必要な施設を全員で選ぶ。

2班に分かれて残った施設のなかから公園に設置したいものを選び、公園の図を描く。

3.3.3、最終案の決定

第2回のワークショップでできあがった2つの案を津島中学校の全校生徒の投票で1案を選んだ。

3.4、第3回ワークショップ(H14.11.18)

- ・参加メンバー 津島中学の生徒、先生、地元の方
 - ・作業時間 午後4時から5時30分・場所 津島中学校
- #### 作業内容

第2回で決定した最終案をコンサルタントが各施設の寸法などを実際のものに訂正し、その図面を見ながら参加者全員で意見を出し合った。その意見を基に修正を行い最終の計画案を作成した。



4、ワークショップ終了後

ポケットパークの名称の募集を津島中学全校で行い、全校の投票結果により「風園」^{ふうえん}に決定した。

嵐坂歩道トンネルの起工式（H14.12.14）の際に中学生により「風園」とワークショップについて発表。

5、まとめ

今回、約1ヶ月の間に3回のワークショップを行い整備計画案の作成を行った。和やかな雰囲気の中で活発な議論が行われ、整備計画案についても参加者の方が満足できるものができあがった。今回のワークショップの成功の要因及び反省点は次のようなものである

成功要因

地元津島町役場との連携が、十分な協議を事前に行うことによりうまくいった。（参加者の募集、中学校への協力の依頼など）

地元津島町役場と協力して事業を進めることによって、中学校の先生や地元の方にスムーズにこの事業の趣旨を理解してもらえ、協力を得ることができた。

ワークショップ形式の話しあいを行った効果で、参加者の全員がそれぞれの意見を表現でき、かつ話し合うことができ、地元の方・利用する立場ならではの意見やアイデアを得られた。

国とコンサルタントの役割分担及び、ワークショップの基本方針を明確にすることによりコンサルタントから質のよいサポートを受けつつワークショップを進めることができた。

開催期間中は新聞等に積極的に情報提供を行い、ワークショップ終了後の嵐坂歩道トンネル起工式において、今回のワークショップのパンフレットを配布し、中学生に発表してもらおう等のPRができた。

反省点

第2回・第3回ワークショップにおいておいては参加者に偏りができてしまった。

事前のPR期間を長期に設定するなどして周知をはかるとともに、ワークショップの開催期間に余裕をもたせ、多くの方が参加できるように日程調整を行えば、より広い層の方の参加が期待でき、幅広い意見を集められたのではないかと考える。